

平成 28 年度（2016 年度）真珠養殖漁場の真珠母貝成長

磯田能年・井戸本純一

1. 目 的

県内淡水真珠養殖漁場の状況を把握するために、水質および母貝の成長をモニタリングした。

2. 方 法

2014 年 5 月から 2015 年 3 月にかけて県内の主要な真珠漁場である堅田内湖、西の湖、赤野井湾において、概ね 2 ヶ月に 1 回、真珠母貝の殻長および殻重の測定を行った。測定に用いた貝は 2014 年より垂下している大型の母貝（以下大型貝、 $n=18, 25, 25$ ）ならびに、2016 年 5 月より新たに垂下した小型の母貝（以下小型貝 $n=25, 25, 25$ ）の 2 系統を測定に供した。大型貝は縦型のネットに収容し、小型貝はバットの底に砂を敷いて、その中に収容した。水質はイケチョウガイの餌料環境を評価する指標として、粒径 $20\mu\text{m}$ 以下の画分のクロロフィル a 量を、西の湖は毎月、堅田内湖と赤野井湾は貝の測定に合わせて分析した。

3. 結 果

各漁場における母貝の成長を図 1 に示す。

大型貝、小型貝ともに各漁場とも一定の成長はみられたが、小型貝では西の湖と堅田内湖で、良好な成長が確認された。粒径 $20\mu\text{m}$ 以下の画分のクロロフィル a 濃度は概ね西の湖で高く、赤野井湾と堅田内湖は、同様の傾向を示した（図 2）。

各漁場において小型貝は堅田内湖で 5 個体、西の湖で 9 個体、赤野井湾で 2 個体死亡した。各漁場ともに、大型貝の斃死はなかった。平成 28 年夏季には南湖および西の湖でアオコの発生が多く、特に西の湖では 8 月に約 1 か月間継続してアオコが発生したため、比較的体力のない小型貝が夜間の酸欠により死亡した可能性がある。

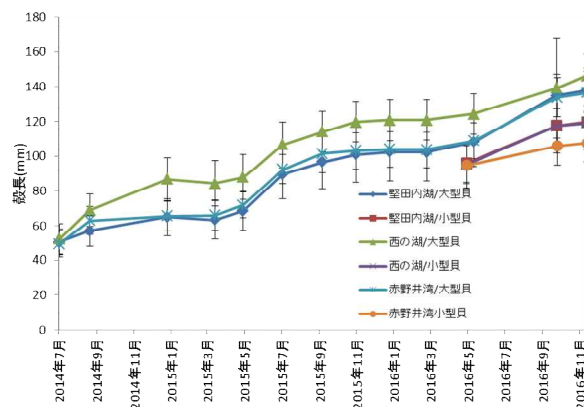
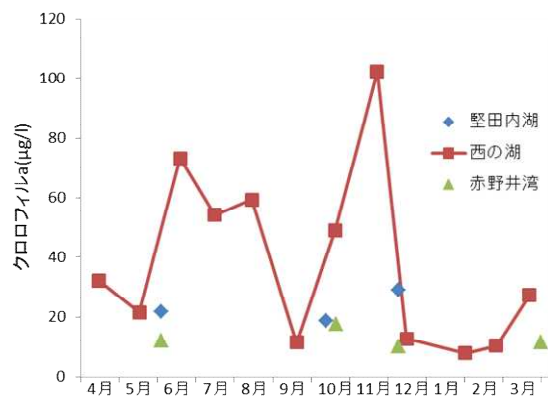


図 1 試験貝の殻長測定結果

図 2 粒径 $20\mu\text{m}$ 以下の画分のクロロフィル a 量の推移